

## **神奈川県小学生バレーボール連盟 会長のメッセージ 「体罰・暴力は絶対に許さない」**

日頃、各チームの指導をおし、本連盟の事業にご協力いただきありがとうございます。本連盟では、日本小学生バレーボール連盟の方針に沿って、皆様方には何度も、暴力・体罰の排除を訴えて参りました。

本年になってからは、各競技団体や高校の部活動等における体罰問題が大きな社会問題としてクローズアップされていることを受けて、公益財団法人日本バレーボール協会では、実態を把握するためにアンケート調査を実施し、神奈川県小連においても県内の全チームを対象に実施させていただきました。その結果については、4月に開催した拡大合同委員会においてご報告をさせていただきましたが、疑わしい事例がなかったというわけではありませんでした。事実、過去において、日小連に報告し処分を受けた事例も本県にもありました。

私たちが指導の対象としている小学生は、体だけではなく、精神的な部分においても成長過程にあります。ですから、大人の感情的な指導によっては怪我につながるだけではなく、我々が想像しているよりもはるかに威圧感を与え、心をも傷つけてしまうことになります。そして、このような場面において子どもたちは、抵抗する術（すべ）を持ち合わせていないのです。

バレーボールが大好きで、上手になりたいと思って練習している子どもたちが、このような指導によって、体だけではなく、心にも大きな痛手を受けることはあってはならないことです。神奈川県小連は、このような指導はいかなる理由があろうとも絶対に許しません。

皆さんとともに、体罰・暴力は指導ではないこと、己の指導力不足を隠す卑劣な手段に過ぎないことを、今一度確認したいと思います。

最後に、保護者の皆様方にお願いです。練習等を見守っている中で、「これは小学生バレーボールの指導としてどうなのかな?」「指導者の言動で子どもが傷ついているのでは?」などと思われた場合には、早めにご連絡をいただきたいと思います。放置しておけば、それだけ子どもが受けるダメージは大きく、深くなってしまいますので、速やかな対応が必要です。連絡先は、神奈川県小連のホームページから、メールをお送りいただければ結構です。

蛇足ではありますが、決して厳しい練習を否定しているではありません。競技スポーツですから、勝利をめざすことは当然ですし、ときには厳しい練習も必要です。厳しい練習と、体罰・暴力とは全く次元の異なるものであるということをご理解いただきたいと思います。

とにかく、子どもたちが楽しくバレーボールができる環境をみんなで作っていきましょう。

### ※参考

体罰根絶に向けた指導徹底について（公益財団法人 日本バレーボール協会）

緊急のお願い（日本小学生バレーボール連盟）

以上 神奈川県小連ホームページ

<http://kanagawa-jva.forzakv.com/>

指導におけるガイドライン

公益財団法人 日本バレーボール協会ホームページ

<https://www.jva.or.jp/support/coach/start.html>

## ■参考「指導における倫理ガイドラインについて」

公益財団法人日本バレーボール協会では、「指導における倫理ガイドライン～暴力とセクハラの根絶に向けて～」を規定しています。その中で、「スポーツは本来、楽しいものだ。バレーボールとビーチバレーもまさにそうだ。選手が胸を躍らせて試合をする。練習に生き生きと励む。少年・少女は練習と試合を通じて技術を高め、チームメートとの絆を深め、フェアプレーの精神を学び、成長する。青少年もそのようにして、心身のバランスのとれた大人になる。」とうたっています。

このような理念のもと、「本会関係者が次に掲げる行為を行うことを禁止する。」とし、その一つとして「指導に名を借りた暴力行為、いじめ、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、差別、暴言等、その他人権尊重の精神に反する言動」と規定されています。

そして、「暴力行為」を「肉体的暴力により相手を傷つけることのほか、侮辱などの言動により相手を精神的に傷つけること」と定義しています。

次に、指導者的心構えとして、3点掲げています。

- ①指導者は選手、チームに規律を植え付ける意図であろうと、その他いかなる意図であろうと、暴力行為をしてはならない。指導者には常に自身を律する意思の強さが求められる。
- ②暴力行為には肉体的な暴力だけでなく、暴言・脅迫・威圧・侮辱などにより相手を精神的に傷つけることも含まれる。相手の人格を否定するような言動、相手の存在を無視するような態度は精神的な暴力である。
- ③選手が自分の意に沿わない言動をとったとき、指導者が暴力行為に頼っても、なんら問題の解決にはならない。

各指導者は、常にこのことを忘れることなく日ごろの活動を行わなければなりません。小学生バレーボールの主役は、日小連のキャッチフレーズ「ど真ん中に子どもがいる日小連」のように、あくまでも選手である子どもです。勝ちたいのは指導者ではなく選手です。主役を取り違えないようにする必要があります。このことを、小学生バレーボールに関わるすべての大人が片時も忘れてはならないのです。-